

はじめに

これまで県教育委員会では、深刻な中学校の学力問題をはじめ、いじめや不登校など本県が抱える教育課題の解決を図るため、平成20年7月に「学ぶ力を育み 心に寄りそう 緊急プラン（学力向上・いじめ問題等対策計画）」を策定し、「学力、体力をまずは全国水準に引き上げる」、「不登校や暴力行為の発生率をまずは全国水準まで改善すること」を目標に、学校・学級改革や放課後改革など5つの改革と体力づくりに積極的に取り組んできました。

その結果、学力、体力、生徒指導上の諸問題のいずれも改善傾向にあり、確実な成果を上げることができました。

特に、平成20年度から全ての小・中学校で策定してきた「学校改善プラン」により、学校におけるPDCAサイクルが徹底されるようになり、また、単元テストや教科ごとに作成した学習シートの活用により、課題の大きかった中学生の家庭学習や宿題への取組状況は大幅に改善されています。

これは、緊急プランに掲げた具体的な目標や施策を市町村教育委員会や学校現場で十分に共有し、ベクトルを合わせて取り組んだ結果であり、子どもたちはもとより、保護者や地域の皆様、教職員の方々が頑張ってきた成果であると思います。

しかしながら、中学校の学力や小・中学校の体力、不登校をはじめとする生徒指導上の諸問題は依然として全国平均を下回る状況にあります。

このプランは、平成21年9月に策定した「高知県教育振興基本計画」に基づき、今後4年間で重点的に取り組むべき具体的な施策等を取りまとめたものであり、単元テストや学習シートなど教材を活用した授業改善や家庭学習習慣の確立、「放課後学びの場」の設置といった緊急プランで培った効果的な取組の質を上げながら、引き続き教育改革を継続することとしています。

また、子どもたちの「心の問題」については、問題解決型の施策をより充実させ、課題の抜本的な解決を図ることとしております。中でも子どもたちの「夢」や「志」を喚起し、学ぶ意欲を引き出すための教育として、発達段階に応じたキャリア教育や、豊かな心と感性を育む読書活動の推進、道徳教育や体験活動など「心を耕す教育」にさらに力を入れていくこととしています。

教育では、当たり前のことを当たり前に、日々の取組の質を上げていく「凡事徹底」、「凡事一流」が重要となります。学校、家庭、地域、行政が一体となって、本プランに取り組んでいけば、高知県の教育は確実に良くなりますし、子どもたちも自らの志に向かって、しっかりと将来を切り拓くことができると確信しています。

皆様の幅広いご支援とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成24年3月